六

ジ

ヤ

ワ

方

面

部

隊

2051

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第十六軍野戦自動車廠（治第一〇三六一部隊）

年月日	略歴
昭和一六 一〇 一〇 一九	軍令により第二十四野戦自動車廠編成下令 編成完結（堺）
一七 一 三	大阪港出帆
一 一三	高雄港上陸
二 五	瓜哇島攻略戦参加のため高雄港出帆
三 一	瓜哇島「クラガン」に上陸
三 一〇	「スラバヤ」に転進、同地に本部を置き自動車廠業務に従事す
一八 一 三〇	編成改正に依り第二十四野戦自動車廠を第十六軍野戦自動車廠と改称す
〃	爾後引続き自動車廠業務に従事す
二〇 八 一五	停戦
九 二	終戦
自 二一 五 二	以後終戦に伴う整理業務に従事
至 〃 六 一三	間において「ブロポリンゴ」港出発
二一 六 二一	「レンバン」島に上陸集結

2052

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

七一五　内地帰還のため「レンバン」島を出帆

八五　大竹港上陸

八五　復員完結

2053

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第十六軍憲兵隊（ジャワ憲兵隊）

年月日	略歴
昭和一六 七	軍令により第三野戦憲兵隊臨時編成下令
七 一六	編成完結（新京）
八 二	第三野戦憲兵隊は新京より牡丹江省牡丹江市外興龍鎮に転進同地に駐屯、教育訓練並びに実務に当る
一七 一 三	動員下令
一 六	駐屯地出発
一一三	関東州界通過
一一五	大連着
一一二	大連港出帆
	同日第十六軍の隷下に入る
二 六	高雄港出帆
二一八	仏印カムラン港出帆
三 一	瓜哇島バンタム港カボ岬に上陸
三 六	バンビヤに転進

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

八　三一　編成改正により第三野戦憲兵隊を第十六軍憲兵隊と改称
　　瓜哇島上陸後同島主要地点都市に分隊、派遣所を設置し治安、警備、情報の蒐集等
　　憲兵業務に従事
二〇　八　一五　停戦
　　終戦後ジャワ島に在りて管内の治安維持に従事
二一　六　二　ジャワ島出発
　　六　九　レンバン島上陸集結
　　六　二三　内地帰還のためレンバン島出帆
　　七　二　大竹港上陸
　　七　四　復員完結

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

南方燃料技術研究所（治第一五八四九部隊）

年月日	略歴
昭和一九 六 一〇	南方燃料技術研究所編成完結（ジャワ、バンドン）
	爾後約六ケ月間は研究所施設の建設並に同地付近の警備勤務
二〇 一	以降燃料一般、油肥滑油一般の研究室並に同地付近の警備勤務
八 一五	停戦
九 二	終戦
二一 四 二九	「ガラン」島上陸集結
六 一五	内地帰還のため「ガラン」島出帆
六 二八	大竹港上陸
七 一	復員完結

2056

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立歩兵第一五〇大隊

年月日	略歴
昭和一九 一 三	軍令により独立歩兵第一五〇大隊編成下令
一 一〇	編成完結（仏印西貢）
一 一四	仏印泰国境通過
一 一八	泰馬国境通過
一 二四	昭南着
一 二五	昭南港出帆
一 二七	ジャワ島タンジョンプリオータ港上陸
一 三一	ボゴル州スガブミ市到着
	爾後同地附近の警備に任ず
二〇 八 一五	停戦
九 二	終戦
二一 七 二〇	作業隊編成のためジャワ、バンビア港出帆
八 一	蘭領ニューギニア、ホランディア上陸作業に従事
二二 四 二六	内地帰還のためホランディア港出帆

2057

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

五六　字品港上陸

五八　復員完結

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立混成第二十八旅団司令部（敬第一〇八二部隊）

年月日	略歴
昭和一九一四	軍令陸甲第一〇六号により独立混成第二十八旅団司令部編成下令
一一〇	編成完結（ジャワ島マラン）
自一一九	「ジャワ」島「マラン」に位置し「ジャワ」東部の防衛に従事
至〃一一〇	
自一一九	「ジャワ」島「スラバヤ」に位置し「ジャワ」東部の防衛に従事
至二〇八四	
二〇八一五	停戦
九二	終戦
自二一八六一八五	「ジャワ」島東部に於て終戦後の諸業務に従事
至二一六一九	内地復員のため「ジャワ」島「プロボリンゴ」港出帆
六二五	「リオ」諸島「レンバン」島に上陸集結
七一五	「レンバン」島出帆
八五	大竹港上陸
八七	復員完結

2059

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立歩兵第一五五大隊（敬第一〇八二二部隊）

年月日	略歴
昭和一七 一〇 三一	軍令陸甲第七十一号により「ジャワ」島「バタビヤ」に於て独立守備歩兵第五十三大隊編成完結
	爾後中部「ジャワ」島の「スマラン」州「スラカルタ」候地「ジョクジャカルタ」候地「マデウン」州「ケドウ」州の五州の警備に任じ本部を「ジョクジャカルタ」候地に置く
一九 一 一〇	軍令陸甲第一〇〇号により独立守備歩兵第五十三大隊は復帰並に独立歩兵第百五十五大隊の編成完結（ジャワ、ジョクジャカルタ）
	爾後引続き中部「ジャカルタ」島五州の警備に任ず
二〇 八 一五	停戦
九 二	終戦
二一 五 一〇	「ジャワ」島「テガール」港出帆
五 一五	「ガラン」島上陸集結
六 二〇	内地帰還のため「ガラン」島出帆
七 八	鹿児島上陸

2060

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

七一〇

復員完結

2061

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立歩兵第一五六大隊（敵第一〇八二三部隊）

年月日	略歴
昭和一七 一〇 三一	軍令により独立守備歩兵第五十四大隊瓜哇島において編成完結
	同日より同島の防衛に任ず
一九 一 一〇	軍令陸甲第一〇六号により独立守備歩兵第五十四大隊復帰並に独立歩兵第百五十六大隊に編成完結（瓜哇島「ルマジャン」）
	爾後東部瓜哇「マラン」州「ケデリ」州の防衛警備に従事
二〇 八 一五	停戦
九 二	終戦
	爾後終戦業務に従事
二一 五 二二	瓜哇島「プロボリンゴ」港出発
五 二八	「リオ」諸島「レンバン」島上陸集結
七 一六	内地帰還のため「レンバン」島出帆
七 二五	大竹港上陸
七 二六	復員完結

2062

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立歩兵第一五七大隊（敬第一〇八二四部隊）

年月日	略歴
昭和一九 一一〇	軍令陸甲第一〇六号に依り独立守備歩兵第五十五大隊復員完結
同 日	独立歩兵第一五七大隊編成完結（東部「ジャワ」「ブスキ」）
自 二〇 四一 至 五 一七	爾後東部「ジャワ」「ブスキ」地区の防衛
	「ブスキ」州下の警備隊として第三中隊を残置し部隊主力は東部「ジャワ」「ボジョヌゴロ」地区の防衛に従事
自 二〇 五一 至 〃 八 四八	西部「ジャワ」「ブリアンガン」州「ガロ」地区の防衛に従事
二〇 八一五	停戦
八 二〇	「ボジョヌゴロ」及「バテー」両州下の治安警備隊として第四中隊及第二中隊の一部を残置し部隊主力は東部「ジャワ」「ブスキ」地区に集結す
二一 五一八	東部「ジャワ」「プロボルンゴ」港に集結
五 二五	「リオ」群島「レンバン」島に上陸集結
六 二七	内地帰還のため「レンバン」島出帆
七 六	宇品港上陸
七 七	復員完結

2063

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

野戦高射砲第三二大隊（治第三八九二部隊）

年月日	略歴
昭一六 七	軍令により野戦高射砲第三二大隊動員下令
七 二二	編成完結（加古川）
七 二四	屯営出発
七 二五	神戸着
七 二六	神戸港出帆
七 三〇	大連港上陸
七 三一	大連出発
八 一	関東州界通過
八 四	満州国蘭崗着
八 二六	東京城着
	爾後同飛行場の防空警備
一一 七	東京城出発
一一 一〇	関東州界通過
一一 一一	大連着

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

一一　一四	大連港出帆
一二　八	泰国「ナコン」上陸
一二　一四	同地出発
一二　二六	泰馬国境通過
一二　三〇	馬来「タナーメラー」飛行場着
一七　一　二四	同地出発
〃	「コタバル」飛行場着
二　二	同地出発
二　四	「スンゲイパタニ」飛行場着
二　一四	同地出発
四　二二	昭南島「テンガー」飛行場着
	爾後同飛行場の防空警備
八　二五	昭南港出帆
八　三〇	爪哇島「スラバヤ」上陸
九　九	「スラバヤ」「グーベン」着
	爾後同地に在りて船団防空警備及対潜対空戦闘に参加
二〇　八　一五	停戦
九　二	終戦

2065

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

二一

六、一〇　瓜哇島出発

六　一六　レンバン島上陸集結

七　一五　内地帰還のため「レンバン」島出発

七　二五　大竹港上陸

七　二六　復員完結

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

瓜哇俘虜収容所（第一六軍俘哇収容所）

年月日	略歴
昭和一七　七	軍令により瓜哇俘虜収容所編成下令
一七　八　一五	編成完結（ジャワ島バタビヤ） 以後第十六軍司令官管理の野戦俘虜収容所の連合軍俘虜約八万人の移管を受け之が管理業務を開始す。 編成並に配置左の如し 本所　所長　バタビヤ市　陸軍少将　斎藤正鋭 本所総務分遣所長　バタビヤ市　陸軍少佐　阿南三蘇男 第一分所長　バンドン市　陸軍中佐　河村秀夫 第二分所長　チラチヤツプ市　陸軍少佐　姥子由太郎 第三分所長　スラバヤ市　陸軍中佐　河辺正 第四分所長　スラン市　陸軍少佐　林兼政
一七　一〇	戦局の進転に伴い、泰緬鉄道建設並に日本内地への労力供給増強に協力の目的を以つて俘虜移管の実施を命せられ昭和一八年三月までに俘虜の大量移管を実施す、其の数約五万人に及ぶ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

右の移管により左の分所を閉鎖す

チラチヤップ　第二分所

マラン市　第四分所

第二分所長　姥子少佐　泰国俘虜収容所へ

第四分所長　林　少佐　前線部隊へ転出

一八　四

濠州進攻作戦に於ける飛行場設定作業に協力のため強健俘虜六〇〇〇人による派遣第三分所を編成し、前線の「モルツカ」諸島へ派遣す

編成並に配置左の如し

派遣第三分所長　「アンボン」島後に「ハルク」島　陸軍中佐　阿南三蘇男

第一分遣所長　「アマハイ」島後に「アンボン」島　陸軍大尉　塩沢　主計

第二分遣所長　「フロレス」島　陸軍大尉　芦田　昭二

第三分遣所長　「ハルク」島　陸軍大尉　倉島　秀一

第四分遣所長　「アンボン」島　陸軍大尉　植田　忠雄

但し植田大尉は昭和一八・九塩沢大尉が「アンボン」島への移動時まで

昭和一八年四月派遣第三分所の前線派遣に伴い「スラバヤ」第三分所を閉鎖し左の配置を以つて爪哇島に於ける管理業務に任ず

本所総分遣所長　バタビヤ市　陸軍中佐　河辺　正

第一分所長　バンドン市　陸軍中佐　河村秀夫

2068

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

一九　三

爪哇俘虜収容所長陸軍少将斉藤正鋭「シンガポール」、俘虜所長に転任し新に陸軍大佐中田正之着任す

昭和一九・三爪哇軍攻監部より連合国抑留者管理業務を継承し俘虜管理業務と共に兼任す（管理抑留者数約十一万人）

昭和一九・三抑留所開設時の編成並に配置左の如し

爪哇抑留所本所長	バタビヤ市	陸軍大佐　中田正之
〃　本所	バタビヤ市	陸軍中佐　河辺正
〃　総分遣所長	バンドン市	陸軍中佐　河村秀夫
〃　第一分所長	スマラン市	陸軍大尉　吉田重次郎
〃　第二分所長		

昭和一九・三抑留所の開設に伴い警備要員として「インドネシヤ」原住民兵補三〇〇〇人を採用し警備と共に教育訓練を実施す

派遣第三分所の設定作業の概要左の通り

昭和一八・四下旬派遣第三分所は阿南中佐以下の主力と俘虜四〇〇〇人を「アンボン」島方面、芦田大尉以下と俘虜二〇〇〇人の第二分遣所を「フロレス」島方面へ配置し飛行場設定作業に任ぜしむ。

折柄同地方は雨季に入り連日降雨続き湿潤激しく且つ糧秣被服、薬品等の諸物資の補給困難の状況下にて赤痢栄養失調（脚気、失明者）患者続出し派遣俘虜六〇〇〇人中「ジャワ」島復帰時に於て死者約二〇〇〇人、病人俘虜約二〇〇〇人健康俘虜約

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

二〇〇〇人の悲惨なる状況にして派遣間現地に於ける管理業務が如何に至難事なりしかを物語るに余りあるというべし

昭和一九・九迄に於ける作業の成果左の如し

「アンボン」島「リアン」地区、偵察用滑走路一及附属設備作業

「セラム」島「アマハイ」地区　偵察用滑走路一　〃

「ハルク」島　地区　偵察用滑走路一　〃

「フロレス」島　地区　爆撃用大滑走路一　〃

偵察用滑走路二　〃

爆撃用滑走路一　〃

昭和一九　九　派遣第三分所に属する派遣俘虜の「ジャワ」島復帰のため南方総軍司令部より之が輸送に充分なる配船を受く

芦田大尉の「フロレス」方面は之に依り引揚げを即時完了するを得たるも阿南中佐の「アンボン」島方面の主力は此の配船を現地航空部隊の移動に転用せられ当時の戦況に於ける最善、最後的なりし此の配船に依る輸送の機会を逸し昭和一九・一〇以降より余儀なく連合軍の反攻熾烈を加える「アンボン」島に寄港稀なる小型便船を利用し逐次引揚げを開始し輸送途中空襲と物資不足等汎ゆる困難を克服しつゝ全員を「ジャワ」島に復帰すべく最後迄努力せしも遂に一部俘虜の引揚完了を見ることなく終戦を迎えたり

二〇　八　一五　停戦

九　二　終戦

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭和二〇・九連合軍の「ジャワ」島進入後其の指令に依り俘虜並に抑留者の整備給食の任務を続行す

二〇　一一　連合軍に対する俘虜抑留者の引渡しを完了し日本軍の計画に基き「チバダック」の移駐地に部隊を逐次集結す

二一　二　此の時期以来当部隊員中より戦犯容疑者の召喚開始せられたり

二二　五　三　連合軍の命令に依り前記移駐地を引揚げて全員バタビヤ市に移り各種労務に従事す

五　一六　内地帰還のためタンジョンプリオク港出帆

〃　〃　佐世保港上陸

復員完結

2071

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp